

二〇二五年度

入学試験問題

(二月四日午後)

国語

- 一 開始の合図があるまで問題用紙・解答用紙にふれないでください。
- 二 開始の合図があったら、最初に問題用紙六ページ、**解答用紙二枚**を確認してください。
- 三 解答用紙に受験番号と氏名を記入してから始めてください。
- 四 問題についての質問は受け付けません。印刷のはっきりしないところや用事があるときは、声を出さずに手をあげてください。
- 五 字数が指定されている問題は、記号・句読点も一字として数えてください。
- 六 問題用紙は回収しません。
- 七 筆記用具の貸し借りはしないでください。
- 八 試験時間は五十分です。終了五分前になったら知らせます。
- 九 答案を書き終わっても座席からはなれないでください。

一 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。（なお、作問の都合上、省略・変更した部分があります。）

ことばをうまく使うためには、記憶からただ取り出せればよいというわけではありません。どれだけ素早く取り出せるかが大事です。もたもたせずに、ささと必要な情報を記憶から取り出せると、その分、脳で思考する容量を「推論」に使うことができます。

知っていることばを素早く取り出せる能力、つまり「情報処理能力」は、年齢とともに発達していきます。① 1歳半の子よりも、

2歳の子どものほうが、ずっと素早い取り出しができます。でも、同じ年齢の子どもでも、子どもによって差があります。あ

二〇〇二年にスタンフォード大学ではこのような実験が行われました。赤ちゃんにテレビモニターの前に座ってもらい、赤ちゃんが知っているはずのモノ、例えば、ウサギとイヌの写真を見せます。そして赤ちゃんに「ウサギを見て」と語りかけます。まだ1歳台の赤ちゃんでも、正しいほうの絵、つまり「ウサギ」を見ることはできます。でも、最初はウサギとイヌの間で視線が泳いだり、しばらくイヌを見つめてからやっとウサギを見たり。それが2歳になると、「ウサギを見て」と言われるとすぐにウサギに視線を動かすことができます。い

この研究で、2歳の時点で、知っていることばを記憶から取り出すスピードに子どもの間でかなり差が出てしまっていることがわかりました。半年分くらいの違いが生まれてしまっていたのです。知っ

ていることばの取り出し能力が低い子どもは、新しい単語の意味を考えると、② その単語と関係しそうな、すでに知っている単語を思い出し、その単語との関係を考える、という流れがスムーズにできずに、知らない単語の意味をうまく推測できなくなってしまう。う

もう一つ、「考える力」に含まれる大事な能力に、「思考をコントロールする力」があります。これは「実行機能」と呼ばれるものです。「思考のコントロール」には次のようなステップが必要です。

(1) 必要な情報に注意を向け、情報を自分の中に入れる。また、必要に応じて注意を切り替える。

(2) 選んだ複数の情報を、③ 一時的な記憶の貯蔵庫にためておき、すぐに取り出せるようにしておく。

(3) 不必要な情報に注意が向かないようにしておく。

問題を解決するとき、この「思考をコントロールする実行機能の力」はとても大事です。もちろん、新しいことばの意味を考えると、きにも必要です。え

例えば、新しい「動きを表すことば（動詞）」を聞いたとしましょう。そのとき、子どもが注目しなければならないのは、登場人物そのものではなく、登場人物同士の動作です。つまり、動詞の意味を考えるためには、登場人物やモノへの注意を抑えて、その間の関係に注目することが必要なのです。

新しいことばが、「様子を表すことば（形容詞）」なら、モノや人の様子や特徴に注意を切り替える必要があります。つまり、ことばの意味を考えるのに、さきほどの実行機能の要素の(1)、(2)、(3)が同時に必要になってきます。

子どもは動きや様子よりもモノに注意を引き付けられます。動きや様子を表すことばは、④モノへの注目を抑制しなければならぬため、動詞や形容詞を覚えるためには、「注意の切り替え」や「必要でない情報には注意を向けない」ことが特に大事になってくるのです。

ざっくり言うなら、「思考力」というのは「知識を使って、推論し、問題を解決する力」と言えます。

X

は

Y

 が必要です。推論をするためには、必要な知識や情報だけに注目し、不必要な情報へ注目しないように思考をコントロールする「実行機能」と、脳に記憶されている必要な知識に素早くアクセスする「情報処理能力」が欠かせません。知識がこの二つの力に支えられてはじめて推論が可能になり、問題が解決できます。

「思考力」がなければことばを覚えることはできませんが、もちろん「考える力」が大事なものは、ことばの学習に限ったことではありません。「考える力」はすべてのことの学びになくはならない大事な大きな能力です。「考える力」が育てば、学力はいっしょに伸びていきます。逆に、たくさん暗記をして、いろいろなことを断片的に覚えても、「思考力」がついていなければ、新しいことを自分

で学習できるようにはなりません。

（中略）

学力は親の経済力と関係する、という話をこのごろよく聞きます。そのような統計の結果も公表されています。学力が経済力と関係するのなら、学力を支えることばの力も親の経済力で決まるのでしょうか？

スタンフォード大学の研究では、アメリカで、経済的に豊かな家庭の子どもと貧困家庭の子どもでは、2歳の時点で、ことば力に平均して半年分の差ができていて、というショッキングな結果を報告しています。しかし、よく調べてみると、実は、⑤これは単純に家庭の所得が高い、低いという問題ではないことがわかりました。所得の高い家庭の親は、低い家庭の親に比べて、次のような特徴があるのです。

- ・子どもへの話しかけや子どもの発話に対する返答が多い。
- ・子どもへ話しかけるときに、適度に複雑な文を言う。
- ・いろいろな種類の単語を使う。同じことを言うのにも、違うことばや違う言い方をする。

ここから考えられることは、親の経済状態が子どものことばの力を決める決定的な要因ではないということ、むしろ、⑥が、子どもの語彙の学習に大きく影響していた、ということです。所得の低い家庭の間でも、発話量が多い家庭では子どもは豊かな語彙力

を持つことができることもわかりました。

この発見を受けて、スタンフォード大学のチームは、スペイン語話者の低所得家庭の母親を対象に、子どもとのかかわり方やことばを覚えることで脳がどう発達するかなどについて学ぶプログラムを行いました。すると、プログラムを受けてから半年後、子どもが2歳になったときには、母親の子どもへの話しかけがずっと増えていました。そして、そのときの子どもの語彙の量とことばの取り出し能力を測ったところ、どちらも大きく成長していたことがわかったのです。

つまり、ことば力の差は、家庭の経済力ではなく、どれだけたくさん語りかけをまわりの大人からしてもらえるかで決まるということです。逆に言えば、経済的に豊かでも、子どもへの語りかけのしかたがよくなければ、子どものことば力は貧弱になってしまうということです。

思い出してください。思考力はことばの力と連動します。ことばの力が貧弱だと、思考力も伸びません。すると、学校のいろいろな教科で次々と出てくる新しいことば（概念）の理解も進まず、学ぶに必要な語彙が増えていきません。当然学校に入ってから学力も伸び悩んでしまいます。

（今井 むつみ『親子で育てることば力と思考力』より）

問一 本文中には次の一文が抜けています。どこに入りますか。本文中の **あ** から一つ選び、記号で答えなさい。

そしてそのために、ことばを増やすことがうまくできなくなってしまうのです。

問二 — 線部①「1歳半の子どもより、2歳の子どものほうが、

ずっと素早い取り出しができます」とありますが、具体的にどのような差がありますか。本文の例を用いて説明しなさい。

問三 — 線部②「その単語と関係しそうな、すでに知っている単語を思い出し、その単語との関係を考える」とありますが、

これと同じ意味で用いられている言葉を、本文中から二字で抜き出して答えなさい。

問四 — 線部③「一時的な記憶の貯蔵庫にためておき、すぐに取り出せるようにしておく」とありますが、これと同じ意味で

用いられている表現を、本文中から六字で抜き出して答えなさい。

問五

——線部④「モノへの注目を抑制しなければならない」とありますが、なぜですか。その理由として最もふさわしいものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア モノそのものではなく、関係性に注目しなければいけないから。

イ 子どもはモノよりも動きや様子に注目してしまうから。

ウ 人やモノの様子に注意を切り替える必要がないから。

エ 注意すべきモノへの関心を抑えなければいけないから。

問六

$\boxed{X} \cdot \boxed{Y} \cdot \boxed{Z}$ に入るべき言葉の組み合わせとして最もふさわしいものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア X 推論 Y 知識 Z 問題の解決

イ X 問題の解決 Y 知識 Z 推論

ウ X 知識 Y 推論 Z 問題の解決

エ X 問題の解決 Y 推論 Z 知識

問七

——線部⑤「これ」とありますが、その内容を解答用紙の指定に合うように八字以内で答えなさい。

問八

$\boxed{⑥}$ に入るべき文として最もふさわしいものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア どれだけ子どもに寄りそったことばを使えるか

イ 所得の高い家庭で行われている会話の真似

ウ 異なる国のことばを幼いうちから教えること

エ 親から子どもへ話しかけることばの量と質

問九

次の各文を読み、本文の内容と合っているものには○を、誤っているものには×を答えなさい。

ア ことばの力はモノとことばの関係を理解し、自分の知識と結びつける必要がある。

イ ものごとを考える力は、ことばを身につけるために必要な、ただ一つの能力である。

ウ 「実行機能」を正しく使うには、「思考をコントロールする力」がないといけない。

エ 家庭の経済的な貧困は、子どものことばの力を左右する決定的な要因ではない。

問十

波線部「新しいことば（概念）」とありますが、あなたが最近「すてきだな」と感じたことばを一つ、そう思った具体的な例を交えて二百字以内で紹介しなさい。

二

次のカタカナの文章を読んで、漢字とひらがなと読点を正しく用いて書き直しなさい。

キンネンチホウトシヲチュウシンニハタラクヒトガ
タリズコウコウセイノサイヨウヲカンガエルカイ
シャガフエテイマス。シカシコウコウソツギヨウゴ
ニダイガクナドニシンガクスルヒトノゾウカモアリ
キユウジンハアマリウマクイッテイマセン。マタカ
リニハタラクコトニナツテモサンネンイナイニタイ
シヨクスルヒトモオオクコトハソウカンタンニスス
ミソウモナイノガゲンジョウデス。

三

次の(1)～(5)の——線部の漢字をひらがなに、(6)～(10)の——線部のカタカナを漢字に改めなさい。

- (1) 定石通りに試合を進める。
- (2) 勉強の不安に光明が見えた。
- (3) 用がある都度声をかけてください。
- (4) 公文書にサインをする。
- (5) 望みがかなわず興がさめてしまう
- (6) シュウカン漫画を楽しみに待つ。
- (7) カンレイ前線が冬を感じさせる。
- (8) 選挙を前にシヨシンを明らかにする。
- (9) シュウトク物を交番に届ける。
- (10) おおまかなケントウをつける。

四

次の(1)～(5)の()に、各文下の読み方になるよう、漢字を一字入れなさい。

- | | | | | |
|--------|---------|-----------|----------|--------|
| (5) | (4) | (3) | (2) | (1) |
| 創 | 因 | 針 | 一 | 異 |
| () | 果 | () | () | () |
| 工夫 | () | 棒 | 退 | 同音 |
| ↓ | 報 | ↓ | ↓ | ↓ |
| そういくふう | いんがおうほう | しんしょうぼうだい | いっしんいつたい | いくどうおん |

氏名

--

*印のものは、何も記入しないでください。

*

小計
*
1

[illegible]

問一		
問二		
問三		
問四		
問五		
問六		
問七		
問八		
問九	ア	イ ウ エ

